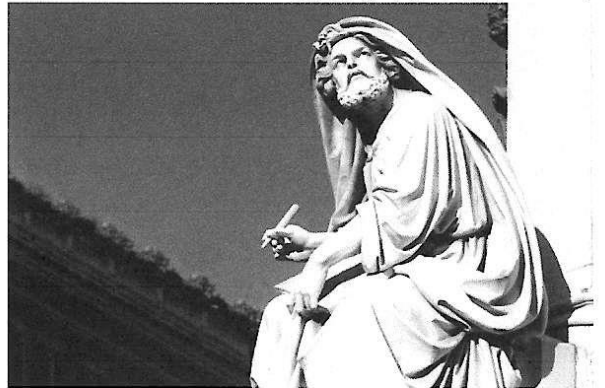


< 主の喜ばれる礼拝 >

イザヤ 1:1-20

預言者イザヤ像(ローマ)

預言者イザヤ …分裂後のイスラエル王国、南ユダ王国の貴族。
神のことばを預かって王や民に語る預言者は、孤独でキツイ仕事。罪を明るみに出し、さばきを語り、立ち返る者への希望を語る。



8 節は、北王国が滅び、ユダ王国も多くの町々を攻め取られ、エルサレムとその周辺の町々だけが残っているという状態を指す。

王国滅亡の危機が迫るとき、イザヤは立ち上がって何を語るのか

「天よ、聞け。地も耳を傾けよ。主が語られるからだ。『子どもたちは私が育てて、大きくした。しかし、彼らはわたしに背いた。牛はその飼い主を、ろばは持ち主の飼葉おけを知っている。しかし、イスラエルは知らない。わたしの民は悟らない。』…」
(イザヤ 1:2-3)

家畜だって自分の主人の言うことを聞く。

「わざわいだ。罪深き国、咎重き民、悪を行なう者どもの子孫、墮落した子ら。彼らは主を捨て、イスラエルの聖なる方を侮り、背を向けて離れ去った。」 (イザヤ 1:4)

「わざわいだ」へブル語「ホイ」→泣き声を表わすことば。

神は、ご自分の民の墮落した姿に心を痛めて泣いておられる。

7 節で、神のさばきが国の滅びをもたらしていく様子が描かれる。

「…新月の祭り、安息日、会合の招集—わたしは、不義と、きよめの集會に耐えられない。
あなたがたの新月の祭りや例祭を、わたしの心は憎む。それはわたしの重荷となり、そ
れを担うのに疲れ果てた。」 (イザヤ 1:13b-14)

キチンと礼拝を守る裏で、彼らの生活は全く神の心に反するものであったから。

「…あなたがたの悪い行いを取り除け、悪事を働くのをやめよ。善をなすことを習い、公正を
求め、虐げる者を正し、みなしごを正しくさばき、やもめを弁護せよ。」 (1:18b-19)

礼拝とは、私たちのいのちのあり方。神との関係。神に向かう態度と生活そのもの。

礼拝の中心は聞くこと。聞いて、神の心を知って、従うこと。

「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、
あなたがたにふさわしい(第三版では:霊的な)礼拝です。」 (ローマ 12:1)

「主は、全焼のささげ物やいけにえを、主の御声に聞き従うことほどに、喜ばれるだろうか。
見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」
(サムエル記第一 15:22)

どんなに素晴らしいいけにえよりも、どんなに立派な礼拝よりも、神の言葉に耳を傾け、
聞き従うことを神様は喜ばれる。

霊的とは、「キリストの心を持っている」ということができる。神のことばに真剣に耳を傾け、神の心を知り、神のことばに従おうとして生きている日常が霊的ということ。

神は、ご自分の民を決して捨てない。

「彼ら(ユダヤ人)は…神に敵対している者ですが、選びに関して言えば…神に愛されている
者です。神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。」(ローマ 11:28-29)

「洗え。身を清めよ。」 (1:16z)

「たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」 (1:18b)